

# 小学生の説明的文章の理解レベルを深める読み指導の実践 —「ありの行列」の対話的読み授業の分析—

○住田裕子 (広島大学大学院)

森 敏昭 (広島大学)

キーワード：説明的文章，文章理解レベル，対話的読み

### 問題と目的

国語科の「読むこと」における深い文章理解とは、文章のテキストベース（表層構造）の分析に基づいて状況モデル（深層構造）を構成することであると考える。状況モデルは文章中に明記されない推論を必要とするような設問により測定される（深谷，2011）。しかし、小学校の多くで用いられる単元テストにおける設問は、ほとんどがテキストベースに基づくものであるため、深いレベルの文章理解力が育成されているかを十分に把握できない状況にある。そこで本研究は、児童の文章理解の深さを、教科書掲載の題材から作成した課題を用いて調査し、その分析をもとに、児童の深い文章理解を促す説明的文章の読み指導の実践の在り方について検討することを目的とする。

### 方法

#### 調査内容

研究1では、小学3年生国語科の教科書に掲載されている説明的文章教材「ありの行列」（光村図書）より、調査問題（「全ての砂糖を運び終えた後、ありの行列はどうなるでしょうか」と文章理解レベル表（Table 1）を作成し、小学3～6年生の児童の文章理解レベルを測定・分析した。研究2では、図を活用して推論の明示化を図るための対話的読み指導を行い、対話中の発話分析を行うとともに、研究1の結果と比較検討した。

#### 調査対象者

広島県内の小学校7校の3年生122名、4年生90名、5年生98名、6年生124名の計434名。授業実践は、3年生1クラスを対象に行った。

Table 1 設問選択肢と文章理解レベルとの対応

読解レベル	定義	「ありの行列」課題3択
不正確テキストベース	文章の意味内容を正確に表していない表象	(A)ありの行列は、砂糖がなくなってもずっと続く。
テキストベース	文章の意味内容の表象	(C)ありの行列は、砂糖がなくなればすぐに止む。
不十分状況モデル	文章の表す状況に対して読み手が齟齬のない程度に作った曖昧な表象	(B)ありの行列は、砂糖がなくなった後、しばらくは続くがやがて止む。(理由が不明、不十分、不適切)
状況モデル	テキスト情報が読み手の知識の中に統合された状態。文章の表す状況に対する読み手の理解そのものの表象	(B)ありの行列は、砂糖がなくなった後、しばらくは続くがやがて止む。(液が蒸発する間は行列が続く)

### 結果と考察

学年（3年生，4年生，5年生，6年生）を被験者間要因とする1要因計画の分散分析を行った

結果、学年の効果は有意でなかった ( $F(3, 430) = 1.46, ns$ )。学年別の文章理解レベルの人数割合を Figure 1 に示す。また、対話的読み指導の前後で文章理解レベルに有意差があるかどうか検討するために平均値の差の検定を行ったところ、有意差がみられた ( $t(20) = 4.66, p < .01$ )。対話後の児童の文章理解レベルについて、研究1と研究2を比較したものを Figure 2 に示す。研究2で行った授業改善により文章理解レベルの向上に有意差が見られるどうかを検討するために平均値の差の検定を行ったところ、有意傾向にあった ( $t(37) = 1.96, p < .10$ )。

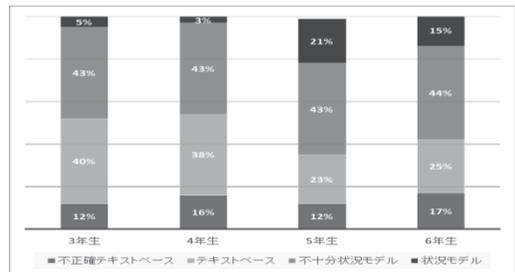


Figure 1 学年別の文章理解レベル人数

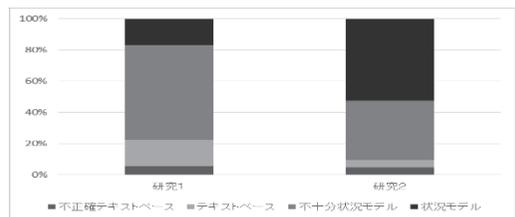


Figure 2 対話後の文章理解レベルの比較

以上の結果から、小学3年生から6年生まで、児童の文章理解レベルには学年差がなく、現在行われている読み指導が児童の文章理解を十分に深めるものではないことが示唆される。一方、文章理解レベルを深める学習効果が示されたのは、小グループによる対話的な協同的問題解決であった。対話活動の後半に推論活動が増えたことから、協同する他者が推論活動のモデルとしての役割を果たしたと考えられる。

### 引用文献

深谷達史 (2011). 学習内容の説明が文章表象とモニタリングに及ぼす影響 心理学評論, 54, 179-196.